

【解答例】

(I)

問 イギリスの北米植民地の南部では、プランテーションの労働力として黒人奴隷が使役された。これを起源に独立後もアメリカ合衆国では奴隷制が残存した。ミズーリ協定で妥協を図るが奴隷制をめぐる対立が激化し、南北戦争となった。奴隷解放宣言を発した北部が勝利した結果、憲法修正により奴隷制は正式に廃止された。こうして黒人に市民権が付与されたが、南部諸州では黒人の権利を制限する諸法が制定され、黒人差別が 20 世紀まで残存した。20 世紀半ばにキング牧師を指導者として公民権運動が活発化すると、ケネディ大統領が公民権法の立法化に着手し、ジョンソン大統領のもとで公民権法が成立すると法的な黒人差別は撤廃されたが、実態としては差別は残存した。(306 字)

(II)

問 1 平戸や長崎に寄港したオランダ人が日本人のキリスト教徒と結婚したが、江戸幕府がキリスト教の禁教令を強化した結果、日本人の改宗者や子孫は国外追放となったため、オランダ東インド会社の拠点であるバタヴィアに移住した。(104 字)

問 2 バタヴィアをアジア貿易の拠点とし、ポルトガルからマラッカを奪ってヨーロッパ向けの香辛料貿易を独占した。アジア各地に建設した商館を拠点に、香辛料のほかインドの綿布や藍を入手し、これらを相互に交換することで利益を得た。また、日中貿易の中継拠点として台湾を確保し、鎖国下の日本との貿易で得た銀を、中国の絹や陶磁器と交換した。(145 字)

問 3 エ

問 4 ウ

(III)

問 1 日英通商航海条約を結び、領事裁判権の撤廃や関税自主権の一部回復などを実現した。

問 2 イラン立憲革命、青年トルコ革命、ドンズー運動などから 1 つ

問 3 第一次世界大戦で帝政国家が崩壊し、欧州列強が疲弊する中、ソヴィエト＝ロシアはカラハン宣言を発して帝政ロシア時代に獲得した中国権益を放棄し、また、国際政治で台頭したアメリカが訴えた民族自決の原則下で東欧の諸民族が独立を果たした。民族自決はアジアには適用されなかったが、アジア諸地域の民族運動は高揚した。国際連盟の常任理事国となり政治的地位を高めた日本の支援が期待されたが、日本は欧州列強と同じく植民地支配を維持した。(207 字)

問 4 中ソ友好同盟相互援助条約を結んだ中国は、ソ連の支援のもとで第一次五か年計画を実施した。しかし、フルシチョフがスターリン批判を行い西側との平和共存路線に転じたことに毛沢東は反発し、中国とソ連は対立した。1960 年代には両国の対立が公開論争になったほか、ダマンスキー島など中ソ国境で武力衝突が生じた。1970 年代も中ソ関係は悪化し続けたが、中国で鄧小平が実権を掌握し、ソ連のゴルバチョフ訪中が実現すると、両国の国交は正常化した。(208 字)